

# 28PA-pm441S

薬物治療に関する猫の飼い主の意識調査

○中山 里枝<sup>1</sup>, 小林 圭太<sup>1</sup>, 町田 いづみ<sup>1</sup> (1明治薬大)

【目的】ペットの高齢化は罹患疾患にも影響を及ぼし、かつて死因の上位にあった感染症は減少し、慢性疾患の割合が増加した。疾患の変化は、飼い主の獣医療への意識に影響を与えることが予測される。本研究では、猫の飼い主の獣医療に対する認識を明らかにし、飼い主の満足度向上のための方策について検討する。

【対象と方法】現在、受療中の猫の主たる飼い主を対象に、インターネットによるアンケート調査を行った。調査期間は2017年6月26日から27日の2日間で、309人からのデータを得た。本研究では、全てのデータを解析対象とした。

【調査内容と分析方法】①治療内容の把握状況 ②治療内容に関する知識の情報源 ③獣医療への参加に関する希望と現状 ④獣医師からの情報提供に関する希望と現状 ⑤治療方針の決定に関する希望と現状 ⑥治療薬選択に関する希望と現状 ⑦現在の治療に関する不安 とした。①②⑦は1変量の $\chi^2$ 乗検定、③④は希望と現状の間でWilcoxonの符号付き順位検定、⑤⑥は1変量の $\chi^2$ 乗検定および希望と現状の間でWilcoxonの符号付き順位検定を行った。

【結果と考察】治療や薬の知識、および、情報提供に関する全項目において、「現状」と「希望」との間に有意差が認められ、飼い主は、現状以上に治療的知識や治療への参加を希望していた。これらの結果は、飼い主と獣医師が協働して治療に当たる「飼い主中心の獣医療」への、飼い主の期待を示すものと考えられる。人医療において「患者中心の医療」を展開させるためには、チーム医療は必要不可欠となるが、獣医療においても同様であると考えられる。獣医療チームへの薬剤師の参加は未だ一般的ではないが、「飼い主中心の獣医療」を展開させ、飼い主の満足度を向上させるために、薬物治療者としての薬剤師の存在は有用であると考えられる。